

御崎地区の歴史文化遺産一覧(1)

※視点番号は252頁を参照。

No.	名称	も	場	こ	地域の歴史文化の視点	赤穂を代表する歴史文化						解説	
						1	2	3	4	5	6		
1	女房三十六歌仙画帖	◎											代表的な女性歌人36人の絵姿と、その和歌を描いた一帖の画冊。見開きの右に和歌を、左にそれぞれの女房の絵姿を書いている。女房の各図は、浜町狩野家初代狩野岑信(寛文2年～宝永5年・1662-1708)の作と知られる。和歌の筆者は「女房歌仙御筆者目録」が付属しており、外題近衛基熙を含め、36人の公卿が1人1首づつ書いている。市指定文化財。
2	田淵家文書	◎			11 30			●					赤穂塩田最大の塩業者・田淵家所蔵の文書類。田淵家は尾崎村から新浜村に移住し、延宝5(1677)年から塩問屋を営んだ。延享5(1748)年には蔵元役に就任し、江戸後期には東西の塩田あわせて106町歩を有する日本最大の塩田地主に成長した。文書類は総数で137件、代々当主の造詣が深かった茶道等の諸問子や藩主御成りに関する記録などが残されており、新浜村の発展、塩田地主の多角経営の実態、豪商の生活ぶりが窺える資料である。市指定文化財。
3	赤穂東浜信用購買利用組合文書	◎			11 30			●					東浜塩田は、明治38(1905)年の専売公社発足時には152町4反2畝21歩を誇り、生産高は133,000石(明治43(1910)年)に達していた。専売制度下で大正13(1924)年に赤穂東浜信用購買利用組合が成立したが、この組合が昭和47(1972)年に解散するまでの約半世紀の記録がこの文書であり、日本製塩業における激動を物語る貴重資料である。市指定文化財。
5	東浜塩田元神郭跡石碑	●			11 30			●	●				兵庫県立赤穂海浜公園東駐車場入口近くの小公園内にある、高さ70cm、幅2mの石碑。正面に「東浜塩田元神郭七番跡」、裏には「平成七(1995)年三月建之」と刻まれている。
6	東浜塩田元神郭一番跡石碑	●			11 30			●	●				赤穂元禄スポーツセンター近くの小公園内にある、高さ95cm、幅2mの石碑。正面に「東浜塩田元神郭一番跡」、裏には「平成七(1995)年三月建之」と刻まれている。
7	東浜塩田東海水尾七番跡石碑	●			11 30			●	●				かつての東海水尾七番跡であった御崎公民館前に建てられた石碑で、高さ153cm、幅30cmの石碑。正面に「東浜塩田東海水尾七番跡石碑」「昭和四(1929)年庭田」とあり、裏面には「昭和六十一(1986)年三月 赤穂市教育委員会建之」とある。
8	塩田風景磁石陶板	●			11 30			●					東浜塩田の西南部、中広御崎線の横断地下道出入口の壁面に、入浜塩田の作業風景や枝葉架の風景画が48枚の磁石陶板を用いて飾られている。高さ1.2m、幅2mの大きさで、平成6(1994)年に設置された。
9	東海北向地蔵	●			12			●					元禄16(1703)年に造られた丸彫り坐像。像高80cmを測る。
10	六地藏(東海)	●			12			●					昔の三昧跡に残された六地藏で、像高85cmを測る。
11	地藏(三崎)	●			12			●					三崎の堂内にある、像高50cmの丸彫り坐像。海から拾い上げた地藏を祀っているという。
12	伊和都比売神社の手水鉢	●			12			●	●				刃傷事件の後、赤穂浅野家が断絶となり、大石内蔵助良雄が御崎から船によって京都へ向かった後、元禄14(1701)年に地域住民らがその記念に寄進したものと伝わる。
13	六十六部中供養塔	●			12			●					仏道を極めた人の供養塔であり、廣度寺は納経塔としている。文政8(1825)年建立。
14	其日庵句碑	●			12			●					天明1(1781～1788)の頃から其日庵にいる川東社という俳諧グループがあり、文化・文政(1804～1892)にかけて活発に活動していた。其日庵宗匠については詳しく判っていないが、蕪村や一茶とおおむね同時代人とみてよい。この句碑は現存する唯一のものである。念仏宗の信仰生活を後半生に送った人のようである。芭門の流れを汲む設立者柳田春桃が正福寺境内に句碑を残した。文政8(1825)年建立。
15	禁葷酒碑	●			12			●					臭いのきつい野菜(ネギ・ニンニク類)は不浄であり酒は浄を乱すので、共に清浄な正福寺の門内には、入ることを禁ずること。文政4(1821)年建立。
16	御崎開発記念碑	●			13			●					大正14(1925)年に西本茂吉らによって赤穂土地合資会社が設立されて、道路敷設や宅地造成などの開発が行われたことを顕彰するために昭和22(1947)年に建立された。
17	忠魂碑	●			12			●					御崎灯台そばに建てられた忠魂碑。
18	田淵氏庭園	◎			11 13 30			●	●				田淵氏庭園は、茶亭露地と書院庭園から成り、三崎山の傾斜を利用して山際に茶亭を、平地に書院を配して構成されている。上部に明遠樓、中腹に春陰齋、下部に書院と池庭が配置され、春陰齋を中心とする露地から下部の書院庭園までは久田宗参の作庭とされている。建築、庭園とも当代一流の造詣がなされ、今日まで当時の姿をよくとどめた名庭として昭和62(1987)年5月、国名勝に指定された。平成18(2006)年5月19日、敷地すべてが名勝園地に追加指定され
19	伊和都比売神社	●			11 12 13 30 32 33	●	●	●	●				市内唯一の式内社で、祭神は伊和都比売大神。『播州赤穂郡志』によると、かつて畠岩(大園)にあった社が移されたという。境内には恵比寿神社・金比羅神社が合祀。本殿前の文化13(1816)年銘の狛犬は銘文のあるものでは市内最古。また元禄14(1701)年の手水鉢も残る。
20	正福寺	●			12			●	●				正保3(1646)年、浅野長直が城下に建立した後、寛文12(1672)年には花岳寺内に移設。元禄14(1701)年、良雪和尚が現在地に良雪庵を建て、永保3(1706)年に補陀山正福寺とした。良雪と大石良雄の関ヶ原「二良の対局」の寺として有名。明治6(1873)年、思誠小学校が当寺を仮校舎として開校。刃傷事件後の暇乞い開山。境内には天保10(1839)年造立の子安地蔵がある。
21	廣度寺	●			12 30 35			●	●				新浜村の開拓に伴い明暦3(1657)年に日想庵が開創、延宝2(1674)年に常光山廣度寺となる。開山は祈禱により千ばつを救った願普孤念。元治元(1864)～明治4(1871)年に、僧成元によって読書を中心とした寺子屋が開かれ、本堂はかつて赤穂城下町に所在した遠林寺にあった本堂を移築したものと伝える。境内には明治40(1907)年造立の「馬頭観世音菩薩」と刻字された板碑石仏がある。赤穂の昔話には、塩田干拓等村の開発に大きく貢献した孤念の寺、海印寺(後の廣度寺)の言われが残されている。(赤穂の昔話)
22	光徳寺	●			12			●					浄土真宗大谷派の寺院で、本尊は阿彌陀如来。寛文7(1667)年に仰西寺として創建、延宝2(1674)年に東有年の黒沢山光明寺中の光徳院を移転し、寺号を光徳寺と改めた。開山は玄智で山号は白雲山。寝殿造の本堂は、享保7(1722)年に東有年の黒沢山光明寺中の光徳寺にあった堂を移築、二階建の楼門・隅棟は寛保2(1742)年に建立されたとい
23	法雲寺	●			12			●					昭和30(1955)年に建立された日蓮宗の寺院で、開山は牛尾文啓。山号は啓昌山。寺と御崎展望台広場との間に建てられた「南無妙法蓮華経」と刻まれた宝塔は昭和27(1952)年の建立である。
24	大師堂1(東海)	●			12			●					「十一面観音菩薩」と呼ばれる像高67cmの弘法大師像。「本尊十一面観音」「七十九ばん」の記載。
25	大師堂2(東寺)	●			12			●					大師堂内にある半肉彫りの弘法大師像が2体安置されている。「本尊葉師如来」「七十七ばん」の石仏と「本尊阿彌陀如来」「七十八ばん」の石仏が並んで安置されている。
26	大師堂3(東寺)	●			12			●					板碑形光背をもつ、半肉彫りの弘法大師像。本来は像高80cmのものが切断されて地蔵部分のみ分離されている。「小豆島第十四番」の記載。
27	大師堂4(西寺)	●			12			●					像高67cmを測る。半肉彫りの弘法大師像。「十一ばん」の記載。
28	大師堂5(西寺)	●			12			●					像高41cmを測る。半肉彫りの弘法大師像。
29	大師堂6(西山)	●			12			●					「十一面観音菩薩」と呼ばれる像高60cmの弘法大師像。「本尊十一面観音」「八十六ばん」の記載。像と台石の石材が異なる。
30	大師堂7(山手)	●			12			●					大師堂内に安置されている像高32cmの丸彫りの弘法大師像。像と台石の石材が異なる。
31	大師堂8(三崎山)	●			12			●					三崎山の大師堂内にある像高45cmの弘法大師像。「十六ばん」の記載。
32	御崎観音堂	●			12 35			●					東海に7つの木製の観音像が流れ着き、それを拾って大塚屋が祀ったのが始まりと伝える。その後は岡本家が管理していたが、窮乏して本像は売却されたという。赤穂の昔話では、備前国の西大寺から流れ着いた観音像の話が残されている。(赤穂の昔話)
33	天理教赤穂分教会	●			12			●					東海にある赤穂市で最古の教会。早川宗助氏の子供の身上を守護いただいたという。
34	岡本家屋敷跡	●			11 30			●					岡本善兵衛(もと荒井(高砂市)で塩業を営んでいたが、東浜塩田開拓に伴って正保3(1646)年、新浜村に移り住んだ。以降、姫路藩領内から入浜塩田の新技術を身に着けた塩民たちが移住し、新塩田の開拓によって新浜村は大きく発展していった。新浜村で財をなした岡本家も、現在ではその跡地が残されるのみとなっている。この屋敷跡は、赤穂藩時代に津山から移住した岡本家のものである。
35	東浜塩田跡	●			11 30			●	●				かつては水尾の張り巡らされた塩田であったが、現在は県立赤穂海浜公園や県立赤穂高等学校、住宅地となっている。
36	水尾跡	●			11 27 30			●	●				塩田に海水を入れる水路として、また上荷舟が用いる運河として築かれた溝を「水尾」と呼び、現在でもその名残をまちなみや風景の中に見ることができる。なお上荷舟は昭和13(1938)年、陸軍への上荷舟徴用により消滅した。
37	百間波止	●			11 30			●	●				水尾に千種川の運ぶ土砂が流れ込み、埋積しないように築かれた波止。
38	唐船土手	●			11 30			●	●				寛文7(1667)年、唐船山を起点として築造された東浜塩田の最も外側の防潮堤で、大土手と呼ばれた。現在は道になっている。
39	塩田水尾入口跡	●			11 30			●	●				かつての東浜塩田における水尾の入口で、ここから荷揚舟が出入りした。
40	塩田給水ポンプ跡	●			11 30			●	●				近代の東浜塩田において、濃度の高い海水を取り入れるために、山を越えて河口に近い海岸から取水を行った施設。
41	みなとひろば(塩倉庫・製塩工場跡)	●			11 30			●	●				かつての東浜の製塩工場跡。現在では赤穂元禄スポーツセンターに隣接する県有地に、スポーツ施設、イベント広場として整備されている。

御崎地区の歴史文化遺産一覧 (2)

※視点番号は 252 頁を参照。

No.	名称	も	場	と	地域	の歴史	文化	の視点	赤穂を代表する歴史文化						解説	
									1	2	3	4	5	6		
42	御崎灯台	●			13	27			●	●						播磨灘を航行する船舶の道しるべとして昭和38(1963)年に設置された。南は播磨灘に面し四国や島々を見ることができ、北に赤穂の市街地を一望できるスポット。
43	東御崎展望台	●			13				●	●						瀬戸内海の島嶼景観を望むことができる。大石内蔵助像あり。
44	桜・梅林	●			13				●	●						桜は三崎山一帯に、梅は御崎展望台広場(赤穂東御崎公園)の斜面に整備されており、観光スポットとなっている。
45	赤穂温泉街	●			13				●	●						昭和44(1969)年に開湯した赤穂御崎温泉は、平成12(2000)年に新しい源泉を開発し、「赤穂温泉」に改名。瀬戸内海に浮かぶ島々や四国を見渡せるロケーションで、宿の部屋や露天風呂から美しい夕日や風景が眺められる。瀬戸内海的美しさ、目の前の海から獲れる幸が堪能できる。
46	観光道路	●			13	27			●	●						昭和34(1959)年開通。
47	海岸沿いの遊歩道	●			13	27			●	●						大正14(1925)年、赤穂土地合資会社(西本茂吉)による開発が開始されて以降につくられたと思われる。
48	元禄橋	●			11	27			●	●						赤穂市内において現存する唯一の鉄製トラス橋。昭和6(1931)年竣工。橋長24.9m、幅員5m。親柱は花崗岩製四角柱。橋の名前は元禄時代から採った。
49	大橋跡	●			11	27			●	●	●					御崎の旧市街地から、製塩工場へ行く際、水尾を渡るために設置された橋。船の通行のため、跳ね橋になっていた。昭和30年代に廃止されたが、現在も橋台が残っている。
50	赤穂コールドロン痕跡	●			13				●	●						「赤穂コールドロン」と名付けられた巨大なカルデラ跡の、陥入したマグマの痕跡が見られる。
51	沈降海岸	●			13				●	●						沈降海岸とは陸地の沈降によって生じた海岸のことで、尾根は岬に、谷は入江となり、複雑な海岸線をつくっている。赤穂の海岸線は埋め立ててきた場所を除き、ほぼこの海岸が見られる。
52	唐船山	●			11	13	35		●	●	●					兵庫県内で標高が一番低い山で、かつて社があった。昔話には、山の上で足踏みするとよく響き、昔の唐の船が埋まっている、または海賊の財宝が埋まっているなど、数々の言い伝えがある。(赤穂の昔話)
53	豊岩(大園)	●			12	13	32		●	●						「播州赤穂郡志」には「昔の社は大園あり、僅の祠なり。天和(1681～1684)の此今の地に移す。大園は今の鳥井(鳥居)の東の大岩を云ふ」とある。現在は通称「豊岩」と呼ばれ、潮の引いた時には陸続きとなる。
54	鷗護岩(御前岩)	●			12	13	32		●	●						「播州赤穂郡志」には「神前の海中に大岩あり、鷗護岩といふ。潮乾く時は現われ、満るときは没す。回船これがために破損す。此海を過るもの懼れずと云うことなし。今そのために標木を建つ」とある。
55	思誠小学校発祥の地	●							●							明治5(1872)年の学制公布をうけて、明治6(1873)年3月20日に正福寺を仮校舎として新浜村(現在の御崎)に初めての小学校となる思誠小学校が発足した。
56	大師さんの井戸腰掛け岩	●			12											御崎の山手地区に「大師さんの井戸」と呼ばれる共同井戸があり、この井戸の脇にある扁平な石を「大師さんの腰掛け岩」と呼ぶ。弘法大師が全国行脚の途中に御崎の地を訪れ、この井戸の傍らの岩に腰掛けたという。以来、この井戸があるとこを「腰掛山」と呼ぶようになった。
57	大石名残の松	●			13				●	●						大石内蔵助は城を明け渡し、元禄14(1701)年6月半ばに妻子を新浜港より大坂に送った。自らも同年6月25日に京都山科に向けて同港から出立した際、何度も松を見返したことから、名残の松の伝承ができたという。
58	東浜塩田モザイクタイル絵図	●			11	30					●					東浜公園の中央にある、縦4.5m、横3mのカラータイルモザイクの東浜塩田絵図。東浜の各塩田がカラフルに色分けされ、名称が記されている。
59	瀬戸内海国立公園	●			13				●	●						昭和9(1934)年に雲仙、霧島とともに日本初の国立公園に指定された。備讃瀬戸を中心に紀淡・鳴門・関門・豊予の4つの海峡に囲まれ、広い海域と点在する島々、それらを望む陸地の展望地が公園区域として指定されている。範囲は1府10県、海域を含めると90万haを超え、国内最大の国立公園。大小数々の島で構成された内海の多島海景観が特徴で、沿岸の陸地に展望地が多数存在する。
60	兵庫県立赤穂海浜公園(赤湖・白湖)	●			11	13	30		●	●						地域の自然環境や赤穂の歴史的背景を生かし、昭和62(1987)年、広大な塩田跡地につくられた公園。園内には、テニスコート、遊園地(わくわくランド)、塩の国(塩田を復元)などが整備され、西播磨地域の多様なスポーツ、レクリエーション需要を担う。
61	赤穂市立海洋科学館・塩の国	●			11	30				●	●					兵庫県立赤穂海浜公園内にあり、瀬戸内海と塩・海洋科学・赤穂の自然科学に関する資料が展示されている。隣接する塩の国では、揚浜式・入浜式・流下式塩田などの製塩施設が復元されており、釜屋での製塩作業の実演や、入浜式塩田での浜引き・集砂・潮かけなどの浜作業の体験、塩づくり体験が楽しめる。
62	赤穂市立野外活動センター	●			13				●	●						キャンプ、野外炊飯、ハイキングなどの野外活動が楽しめる施設。瀬戸内海と桜を楽しめる。
63	赤穂市立美術工芸館・田淵記念館	●			11	13	30									江戸時代前期より塩田、塩問屋などを営んでいた「田淵家」より平成6(1994)年10月に美術品、古文書類が赤穂市に寄贈され、それを展示保存する施設として平成9(1997)年に開館。寄贈された美術品は、日本画、書、茶道具、婚礼道具など多岐にわたる。中でも茶道具が多く、季節感を大切に展示が行われている。
64	桃井ミュージアム	●			13											幕末から明治にかけて使われていた「幻の雲火焼」を復活させた桃井氏が、平成23(2011)年に開館した美術館。雲火焼のほか様々な美術品や、数多くの水琴窟が展示されている。
65	赤穂瀬戸内窯(雲火焼)	●			13											雲火焼は、嘉永5(1852)年に大崎黄谷(九郎次)によって考案されたもので、「新土手焼」とも呼ばれた。独特の光沢のある肌色の焼き物で釉薬を施さず、夕日に映える雲の景色のような赤と黒の窯変が特徴的である。残された作品には茶入、水指・香合・手焙り・火入・灰器などの茶器が多い。雲火焼は黄谷以降後継者がいない断絶していたが、近年、この窯で技法が再現された。
66	唐船サンビーチ	●			13				●	●						瀬戸内海国立公園内にあり兵庫県立赤穂海浜公園に隣接している。瀬戸内海の景色と、潮干狩り、海水浴を楽しめる。
67	福浦海水浴場	●			13				●	●						瀬戸内海国立公園内にあり、赤穂温泉まで徒歩すぐという好ロケーションに位置する。全長150mの浜には海の家があり、シーズンには家族連れで賑わう。
68	恋人の聖地	●			13				●	●						瀬戸内海が一望できる赤穂御崎にある伊和都比売神社は、古くから縁結びの神様として知られており、平成25(2013)年にはその周辺がNPO法人地域活性化支援センターから「恋人の聖地」の認定を受けた。神社では「恋みくじ」もひける。
69	きらきら坂	●			13											伊和都比売神社一帯は前面に播磨灘が開け、磯伝いに遊歩道なども整備されている。神社から海へ向かう坂道が近年「きらきら坂」と呼ばれ、工芸関係のアトリエや人気の飲食店などが並ぶエリアとなっている。
70	赤穂緞通技法		◎													嘉永年間(1848～1854)、中広の児島なかに佐賀と堺の緞通を視察してその原料や織方を研究し、織機を製作。慶応年間(1865～1868)に現在の原型となった。緞通生産を開始した。新浜村の子女を労働者として御崎に緞通場に開かれ、明治・大正時代に隆盛したが戦時中の綿花輸入制限によって衰退。赤穂市に残されていた技法を赤穂緞通技法として無形文化財(工芸技術)に指定した。平成3(1991)年からは赤穂緞通織方技法講習会を開催。後継者も育成に努め、現在は復活している。
71	御大師講	●			12											新浜村の大師信仰はほとんど大正期以降に祀られたという記録と伝承を持ち、井戸などかつての水利共同体と深い繋がりがある。各地区の大井戸は個人ではなく共同井戸であり、村内合力のみでなく隣村や旅船からの援助によって掘られた。現在も4月にはお大師祭りが開催されている。
72	潮干狩り	●			13				●	●						唐船サンビーチで行われる赤穂の季節の風物詩。
73	日本の夕陽百選	●			13				●	●						御崎は景観に恵まれた土地で、御崎から望む夕日は、NPO「日本列島夕陽と朝日の郷づくり協会」によって「日本の夕陽百選」に選定されている。
74	一目五千本の桜	●			13				●	●						赤穂御崎では、海岸の斜面約3kmにわたってソメイヨシノが植えられており、「一目五千本」のキャッチフレーズで桜の名所となっている。
75	鳥居からの眺め	●			13				●	●						伊和都比売神社の鳥居からの眺めは、御崎を代表する景観である。
76	唐船山からの眺め	●			13				●	●						瀬戸内海の島嶼景観が広がる。
77	赤穂御崎からの眺め	●			13				●	●						瀬戸内海の島嶼景観が広がる。
78	坂のまちと路地景観	●			11	13			●	●						御崎は平地を塩田とするため、江戸時代には丘陵地にまちを築いた。斜面を登る主要道と、そこから派生する路地道が特徴。
79	御崎	●			36				●	●						地名。市域の南端で播磨灘に突き出た三つの崎、つまり豊岩のある岬と、福浦と万五郎谷の間の岬と、鳥石(通称:ライオン岩)のある岬に由来する。
80	東海	●			36											地名。江戸中期は小舟も出入りしていた。渡海。
81	大塚	●			36											地名。東隣の尾崎大塚古墳による。
82	元塩町	●			36											地名。東浜土地区画整理事業によって昭和46(1971)年5月に新しくできた町名。塩田跡なので「塩」の字を残すために元塩町という町名を作った。
83	本水尾町	●			11	30	36		●	●						地名。東浜土地区画整理事業によって昭和46(1971)年5月に新しくできた町名。塩田地の字本水尾をとって町名とした。塩田地の「元沖うつろ(土俵に郭)」から。
84	元沖町	●			11	30	36		●	●						地名。塩田地の「元沖うつろ(土俵に郭)」から。
85	御崎マルシェ	●			13											赤穂温泉街の一角で、毎月第三日曜日に地元店舗の他、個人や作家など有志による市を開催。通称「きらきら坂」をメイン通りとして、伊和都比売神社の境内から東の海側へと店舗が並ぶ。